

	パートナー研修会開催報告 1～2P センターからのお知らせ 2～3P 魚類定点調査報告 3～4P 湖岸植物同好会活動報告 4～5P 図書紹介活動報告 (R4 後期) 5～6P 私の細道 (45) 越後路 6～8P 新パートナー紹介、編集後記 8P
	Kasumi

パートナー情報誌 KASUMI 第35号 (通巻73号) 発行日 令和5年7月30日

## 「令和5年度環境学習に向けてのパートナー研修会」開催のご報告

4月28日(金)霞ヶ浦環境科学センター多目的ホールにおいて、本年度の環境学習に向けてのパートナー研修会を開催しました。

パートナーの皆様には、環境学習をはじめ、霞ヶ浦環境科学センターにおける様々な活動で大変お世話になっておりますが、当日は研修会にさきだち霞ヶ浦センター運営に貢献いただきました栗山和子パートナーに、打越副センター長より感謝状が贈呈されました。

今年度のパートナー研修は、小幡先生による特別講座「植物観察を楽しくする5つの方法」を開きました。



小幡先生のお話にもありました「五感を使った感察」という概念は、我々が実施している環境学



習に通ずるものがあり、深く感銘を受けました。また、フィールドワークでは、アカマツやヤマグワなどの植物を雌雄の在り方に注目して観察し、形やつくりについて丁寧に説明を受けました。

某朝ドラにおいて「植物」が注目を浴びている今日。今回の講義を通して、私たちは植物に対する知見をさらに深めることができました。霞センターの自然にはもっとたくさんの不思議が隠されています。お時間がありましたら、今回の講義で身に着けた感察力を生かして不思議を発見してみてください。

今後とも、霞センターの活動へのご協力、何卒よろしくお願いいたします。

(センター 鈴木)

## 「環境月間イベント」開催のご報告

6月の環境月間（主唱：環境省）に、霞ヶ浦や環境についての関心と理解を深めることを目的として「環境月間イベント」を開催いたしました。期間中、センター内外で霞ヶ浦や水環境に親しめる内容のイベントを毎週末実施し、たくさんの方にお楽しみいただきました。

特に、6/24(土)のおもしろ理科先生「Dr. ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」には約120名のご参加があり、その後の展示室ツアー、読み聞かせも盛況となりました。

パートナーの皆様のご協力により、各イベントが開催できておりますこと、心から感謝申し上げます。また、7/17(海の日)からは「霞ヶ浦水質浄化強調月間」が始まりました。様々な環境学習イベントを行い、たくさんの方に親しまれるセンターを目指してまいりますので、今後ともご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(センター 中山)

6/3(土)

水辺ふれあい事業（つり体験）



6/3(土)・4(日)

イオンモール土浦への出展



6/10(土)・18(日)

プランクトン観察体験



6/17(土)

自然観察会（投網）



6/24(土)

おもしろ理科先生



6/25(日)

霞ヶ浦・つくばサイエンスツアー



6/6(火)

Lucky FM 茨城放送出演



環境月間期間中

特別展示「霞ヶ浦に棲む大魚たち」



6/24(土)

読み聞かせ



## 「霞ヶ浦 ECO フェスティバル 2023」開催のお知らせ

今年は、8月27日(日)に4年ぶりの霞ヶ浦 ECO フェスティバルが、開催されることとなりました。環境に関する実験・体験・工作ブース、研究室一般公開、飲食店等、多くの団体にご協力いただく予定です。

久しぶりの開催ということもあり、多くの来場者が見込まれます。当日の運営に、パートナーの皆様もご協力賜ることもあると存じますが、その際は、どうぞよろしくお願いいたします。

(センター 坏)

## パートナー活動に参加して (魚類定点調査)



私が魚類定点調査に参加してから、早10年が経ちました。最初の5年は担当職員として、その後はパートナーとして今に至っています。私の前任者の中村誠先生も後任の腰塚先生も現在もパートナーとして参加してくださっており、チームワークは折り紙付き。私が担当職員だったときは高校生だった會田さんも、大学を卒業して社会人になった現在も変わらず毎回参加で、投網で大物を仕留めようと張り切っています。

調査は原則、奇数月の第2土曜日の午前、投網による魚類の採捕と水質調査を行っています。限られた時間に決められた場所での投網による調査となりますので、その結果をもって、霞ヶ浦の魚類全体を知ることはできませんが、調査定点での採捕結果を継続して積み上げていくことは、その場所の環境の変化を知るうえで、とても貴重なものだと思います。またセンター周辺の湖岸は環境学習の場所でもあり、観察会の計画を立てるのにもそのデータが役に立ちます。





霞ヶ浦を代表する魚といえば、ワカサギとシラウオですが、最近の調査では、シラウオは以前と変わらず確認されるものの、ワカサギの採捕数が減っているのが気になります。ワカサギの減少には地球温暖化の影響も懸念されていて気になるところです。また甲殻類では、テナガエビが多く、スジエビは少なくなってきたように思います。これからも調査を継続して、データを積み上げていくことが大切だと思います。

最後に投網をマスターしたいと思っている方、ぜひ一度参加してみてください。私も最初はまったく投網を打てなかったのですが、中村先生の指導の下、それなりにはできるようになりました。大きな投網が丸く開くようになって気持ちいいですよ。多くのパートナーの方の御参加をお待ちしております。

(パートナー 福井)

## 霞ヶ浦湖岸植物同好会だよりから

### —湖岸植物観察・自然観察会補助活動・「いきもののにわ」整備活動—



例年より植物の開花が早く、今年度の第1回自然観察会(写真左)では湖岸再生地区のヨシ原で県絶滅危惧Ⅱ類のヤナギトラノオの花が見られるか懸念されましたが間に合いました。小幡先生、小川先生、川西先生と同好会メンバー3人が参加した下見の4月28日には既に満開でした(写真下)。

前年度の12月と2、3月の湖岸植物観察中に短時間ずつ、生育地に侵入しているセイタカアワダチソウやノイバラなどを抜いたり刈り取ったりしてきました。また3

月中旬、湖岸クリーンアップ活動中に仲間と窪地に散乱していた空き缶やビン類をゴミ袋2つ分以上拾いました。ちょうどヤナギトラノオの芽が出たところでした。

2018(H30)年3月に再生工事が完了したI区で今年5月、新たなヤナギトラノオの生育地が見つかりました。ヤナギトラノオは霞ヶ浦で生き残る寒冷地植物の一つです。再生地が希少種のサンクチュアリとしての役割も果たしていることが分かります。これからもみんなで見守っていきたいと思います。



前日までの雨が上がり富士山が見えた5月24日、今年度初の「いきもののにわ」整備活動が行われました。新メンバーを迎えて総勢10名が小幡先生主導で池周囲の除草等に心地よい汗を流しました。昨年度移植されたアサザが開花し(写真右)、デンジソウ、タコノアシも新たな葉や茎を出し





ました。カワデシャやミゾコウジュ(写真左)は花や実を付けました。オニバス池で初期のやじり形の葉と刺が出た楕円形の葉が水面に 120 枚以上も見られました。

水中にはクロモが見えマツモムシもいました。褐色のショウジョウトンボの雌が連続打水産卵していて、その周囲を真っ赤な雄がパトロールしていました。多くの生き物が見られる庭になっています。



私達はこうした活動に興味のある仲間をいつでもお待ちしております。

(パートナー 二階堂)

## 令和4 (2022) 年度後期図書紹介活動報告



2022年10月～2023年3月間のセンター文献資料室新規購入図書を中心とした、パートナーによる図書紹介本は、下表の36冊でした。図書紹介の内容につきましては、2階交流サロンに有る「図書紹介一覧」ファイルをご覧ください。

書名	著者名	出版社
利根川高瀬舟	渡辺 貢二	崙書房
なぜ? から調べる水のじゅんかん② 水はどこに行くの?	太田 猛彦	学研プラス
雷と呼ばれた男 北里柴三郎 (上下巻)	山崎 光夫	中央公論新社
万葉集の筑波山	井坂 敦実	結ブックス
かきごおり おまちどおさま	ふくだ じゅんこ	WAVE 出版
ずかん はたらく微生物	中島 春紫	技術評論社
はじめてのびわこの魚	黒川 琉伊	能美舎
わたしたちの霞ヶ浦は・・・	茨城県立土浦第二高等学校化学部	STEP
みえた! せかいのうみのふしぎ	キャロン・ブラウン	くもん出版
生ごみをあさるカラス	三浦 慎吾	金の星社
かみはこんなに くちゃくちゃだけど	ヨシタケ シンスケ	白泉社

書名	著者名	出版社
くらしとくすりのクアルテット	奥井 登美子	筑波書林
ドラえものの理科おもしろ攻略 自由研究アイデア集	原作：藤子・F・不二雄 監修：村山 哲哉	小学館
理科がすきになる！わくわく自由研究 5年生	辻 健	国土社
利根川物語	高橋 裕	筑摩書房
チビねずくのクリスマス	ダイアナ・ヘンドリー	ポプラ社
なにになれちゃう？	チョーヒカル	白泉社
かみなり	妹尾 賢一郎	ポプラ社
絵本で学ぶ SDG s ～地球の未来を考える～	竹内 清乃	平凡社
だれでもかんたん！天気観察入門	武田 康男	東京書店
男の子とおおきなさかな	マックス・ベルジュイス	ホルプ出版
すごい毒の生きもの図鑑	船山 信次	中央公論新社
ぼくとりなんだ	和歌山 静子	日本野鳥の会
水のことわざ事典	淵 眞吉	水資源協会
たねいっぱい わらったね	近藤 薫美子	アリス館
ほうれんそうカレー ききいっぱつ！	田中 六大	佼成出版社
クジラの進化	文：水口 博也 絵：小田 隆	講談社
やさいさん	tupera tupera	学研プラス
くだものさん	tupera tupera	学研プラス
ともだちをたすけたゾウたち	文：わしおとしこ 絵：当山 繁年	教育画劇
おひさまのねがいごと	みやい くみ	チャイルド社
おいしい魚ずかん	上田 勝彦	金の星社
鳥は恐竜だった ～鳥の巣からみた進化の物語～	鈴木 まもる	アリス館
パンどろぼう	柴田 ケイコ	KADOKAWA
たんぼのにんじゃ あまがえる	文：谷本 雄治 絵：サトウマサノリ	文溪堂
プランクトンのふしぎ	「プランクトンのふしぎ」編集室	メイツ出版

(パートナー 浅野)

## 「私の細道」(その45) 越後路

芭蕉の旅もいよいよ後半に入る。象潟から酒田に戻り、7日間滞在した後、鶴岡から温海を経て鼠ヶ関を超え、村上→中条→新潟→弥彦→出雲崎と日本海沿いに南下してゆく。さらに柏崎→直江津



→高田→能生から子不知（こしらず）、親不知（おやしらず）を経て、市振の関に到る。元禄2年、象潟を6月18日（陽暦8月3日）に立ち、市振には7月11日（陽暦8月25日）着となるので、22日間であるが、「おくのほそ道」の「越後路」の章段には僅か数行の記載と2句が掲載されているのみである。が、そのうちの1句によってこの章段の価値を無視することはできない。「おくのほそ道」では簡潔な記載に留めた芭蕉ではあるが、俳文「銀河の序」を真蹟として残し、「荒海や・・・」の句の背景を書き記している。

2022年の夏、月山と象潟を訪ねた私は、新潟から鶴岡までJR特急「いなほ」で日本海沿岸を往復したが、薄曇りの中に鈍色の静かな海と沖合の小島を眺めつつ、得も言えぬ旅情を感じていた。馬場あき子の歌集「ふぶき浜」は冬のこの沿線から取り上げられており、冬になればまさにそのような顔を現わすのだろうとも思いつつ車窓を眺めていた。

越前・越中・越後と越（こし）の国という名はどこから来たのか。「古志」とも書かれ、京から北方に渡る、山を越えた地と言われているが、荒巻宏の「歌枕謎ときの旅」には、「コシとは中国春秋時代の【越】とかかわりがあるのでは」との記載がある。中国の渡来人の住み着いたところとしての名ではないかと荒巻は推定している。

芭蕉が、「象潟」の章段で、象潟を古代中国の【越】の西湖と捉え、更に、美女西施にまで思いを馳せたことは、いみじくも、日本海沿岸に連なる地への憧憬ともいえよう。

2022年10月27日、コロナの第6波も下火になり、感染者数も少なくなっていた折、2年前の同時期のメンバー、義兄夫妻と我々夫婦は、また義兄の車での北陸への旅となった。早朝、阿見を出発。圏央道より関越道へ、秋深まる中を谷川岳の長いトンネルを抜けると、紅葉の山並みの続く越の国へと入った。長岡北インターを出て、国道352号で出雲崎へ。出雲崎と云えば良寛さん生誕の地。昼過ぎに良寛記念館に着き、昼食をとった。記念館には良寛直筆の書簡や、川合玉堂、小川芋銭の良寛にまつわる画など見応えのある展示がなされている。



（良寛記念館：出雲崎）

曾良の旅日記によると、芭蕉らは7月4日に出雲崎に着き宿した。豪雨の夜であったと記されている。前述の「銀河の序」によると、「荒海や・・・」の句はこの出雲崎で作られたとある。豪雨の中での銀河の作ではあるが、思いは伝わる。

荒海や佐渡に横たふ天の河

芭蕉

良寛記念館のすぐそばに、芭蕉らが宿泊したとされる地に芭蕉園が設けられ、芭蕉像と「銀河の序」の碑が配置されていた。良寛上人は江戸時代後期（1728）に生まれており、芭蕉の時代から約100年後となるが、地元を訪れたこの俳聖をどのように見ていたのであろうか。

出雲崎を後に、沖合に佐渡を見ながら、国道 8



(聴信寺：上越市)

号を南下。柏崎→柿崎を経て直江津へ。この地は江戸期には直江津今町と呼ばれる湊町。北前船で賑わった。芭蕉らが立ち寄ったとされる聴信寺を訪ねた。一見して真新しい寺造りであり、寺の中の住居を訪うた。年配の女性とそのお嫁さんらしい人が現れたので、芭蕉と関連した寺と聞いて来たと言え、お嫁さんが丁寧に応じて下さった。曾良の日記に記されている寺ではあるが、当時の寺は焼失し、資料も今では残っていないとの事。挨拶して辞した。近くの海岸沿いに琴平神社があり、日本海を背にして芭蕉句碑が置かれている。

文月や六日も常の夜には似ず 芭蕉

芭蕉らが直江津今町に滞在したのは、7月6日と7日であり、この句は今町の俳席で披露されたようである。更にそこから、車で数分南下すると、本堂や三重塔を配した立派な五智国分寺があり、その一角にも芭蕉句碑と共に、高田滞在中の様子を紹介した案内板が配置されていた。高田は8日に泊しており、その俳席で「荒海や・・・」の句が出されたのではないかと云われている。我々はその日、上越市に宿泊した。

(パートナー 小松)

## 新加入パートナーのご紹介（敬称略）

てらうち じゅんいち いしい ゆうき きなまり ひ め こ おおつぼ ひでたか しおた とみこ  
寺内 淳一 石井 優希 木鉛日芽子 大坪 秀隆 塩田 富子

\*\*\*\*\* <編集後記> \*\*\*\*\*  
線状降水帯なる竜が、日本の上空に巣くって、列島に牙をむいています。被害に遭われた地域の方々におかれましては、心よりお見舞いと、一刻も早くの復旧をお祈り申し上げます。

世界に視点を向けると、平均気温が4日間で3度更新されたという。気候を凶暴化させる温暖化は止まることを知らず、異常高温により世界中に広まる山火事、終わりの見えない戦禍により拍車がかげられる。

数十年に一度の気候災害が常態化しないという保障は決してありません。不安は更に募ります。

香澄通巻 73 号は、8 頁構成とすることができました。原稿をご提供下さいました皆様、有難うございました。

(パートナー 栗原)

\*\*\*\*\*  
「香澄」編集委員会：浅野明宏、有吉潔、栗原繁、矢島信克、樽見博文